

五戸総合病院での研修を終えて

令和3年8月 青森市民病院初期研修医 佐々木勇

私は令和3年8月の1か月間、地域医療研修として五戸総合病院の外科で研修をさせていただきました。青森市民病院では必修科目として外科を2ヶ月研修しておりましたが、五戸総合病院での研修では自院で経験できなかった多くのことを経験させていただきました。

日々の診療では消化器系疾患だけでなく肺炎や脱水症などの内科疾患、褥瘡や皮下腫瘍といった皮膚科疾患も広く扱っていましたし、手術の際は自家麻酔を行っているのを目の当たりにし、地方病院の役割として、何より1人の医師として幅広く医療に関わることができる重要性、必要性を体感しました。

また、多くの手技を経験させていただきました。気管挿管や局所麻酔手術での執刀、脊髄くも膜下麻酔など、自分が志望する整形外科医が手術や救急の場で必要であるものの、今までに経験の少なかったテクニカルスキルを実践できたことは、想像を大きく上回る、自分にとって糧となる研修内容であったと思います。

施設へ出向いて診療をする機会も与えていただきました。通院が困難な患者にとって、なくてはならないシステムだと思いますし、激務と言われる施設職員の身体的・精神的な負担を軽減するためにも必要なことだと感じました。訪問診療は診察時間に比較的ゆとりがあり、実際に入所されている方の診察をしながらお話を聞いていると「診てもらって安心だ」とか「いつも来てくれてありがとう」などの話が聞かれ、普段、特に忙しい時に疎かにしてしまいがちな、診療とは別のコミュニケーションがいかに患者の不安や心配を和らげているかを実感しました。

こういった高齢者の多い地域での研修は、大学入学時のオリエンテーションで「これからは長生きが当たり前になる。だから多くの方がより良く生きるためのサポートができる整形外科医になりたい」と発表したことを思い出させ、改めて今後の目標としていきたいと思います。

最後になりましたが、外科研修として日々指導してくださった安藤先生、井上先生、後村先生及び他科の先生方、看護師や技師の皆さん、事務の方々などスタッフの皆さんには大変お世話になりました。1ヶ月という短い期間ではありましたが、心身とも非常に充実した研修をさせていただくことができました。本当にありがとうございました。